科目区分　学部：特別支援教育教員養成課程（前期）

授業科目　言語・コミュニケーション発達論

特別支援教育講座　花熊　曉

受講者数　16 名

１．授業の目的

本授業は、特別支援教育教員養成課程３回生を対象とした授業で、言語・コミュニケーションに障害のある子どもの教育支援を考える上で必要な、言語・コミュニケーションの発達とその障害に関する基礎知識の習得を目標としている。

２．授業の方法

本授業のシラバスには５つの到達目標を挙げているが、今年度の授業では、到達目標⑵に該当する「自己の日常経験に基づいて授業内容を理解する」ことに重点を置き、グループ討議を多く取り入れて、言語・コミュニケーションの発達とその障害について、自己の日常経験と照らし合わせながら学ぶ授業方法を取り入れた。

全 15 回の授業の中で、言語の発達に関する討議３回と自閉症児の行動特徴の解釈に関する討議４回の計７回のグループ討議の時間を設け、討議結果を発表させた後、各討議テーマが言語・コミュニケーションの発達の中でどのような意味を持つのかを教員が説明するようにした。

３．受講者について

特別支援教育課程の学生 15 名と学校教育課程（教育心理学）の学生１名の計 16 名である。

４．授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア）授業の内容に関するもの：２項目、イ）教員の説明のしかたや配布資料に関するもの：２項目、ウ）グループ討議に関するもの：２項目、エ）授業への感想と改善意見：自由記述、の計７項目からなる授業評価アンケートを授業終了時に実施した。

（ア）授業内容について

項目１「授業内容に興味・感心が持てたか」については、“非常に”と答えた者５名、“かなり”と答えた者 11 名であった。

項目２「授業で学んだ内容は今後子どもを指導する時に役立つものだったか」については、“非常に”６名、“かなり”９名、“どちらとも言えない”１名であった。

（イ）教員の説明のしかたや配布資料について

項目４「教員の説明のしかたやプレゼンテーションのしかたは適切か」については、９名が“非常に適切”、７名が“かなり適切”と回答した。また、項目５「授業で配布した資料の内容や量は適切だったか」については、“非常に”が 10 名、“かなり”が６名であった。

（ウ）グループ討議について

項目６「討議内容」については、16 名全員が“討議内容は適切だった”と回答した。また、項目７「討議回数」についても、16 名全員が“回数は適切”と回答していた。

（エ）授業への感想と改善意見

複数の受講者が「グループ討議は、主体的に考えることができ、“受け身の授業”でない点が良かった」と記していた。また、受講者の１人は、「“身近な事例や現象はどうして起こるのか”という視点から考え、学ぶことができるのがこの授業の良かった点」という感想を記していたが、これらのコメントは、前述した到達目標⑵に関わる授業方法の工夫を評価するものとして、授業者にとっては嬉しい感想であった。

５．授業の評価と課題

今年度の授業では、２年前に行った授業評価アンケートで、「理論だけでなく、実際の子どもの指導・支援につながるテーマも討議で取り上げてほしい」との意見があったことを踏まえて、自閉症児のコミュニケーション支援活動を討議テーマの１つに取り上げたが、受講者からは様々な活動のアイデアが示され、意義があったと感じている。ただ、討議形式の授業にはかなりの時間が必要なため、受講者の主体的な学習と専門性向上に必要な知識教授のバランスをどうとるかという点が難しく、毎年の授業で試行錯誤している状態であるが、今後もその適切なバランスを模索していかなければならないと考えている。